

名称	地	質	製	式	形状
袴	紺	へ	ル	長サ靴踵ノ上際ニ止マル 大サ寛闊 物入兩股ニ各一個ヲ附ス	如 図

(自明治四十四年一月教務内規、諸規定書類「教務掛」より。別紙の図は欠損)
至

◎美術學校 桂 陵 生

啓上、昨日一寸美術學校參觀仕候、上野の山の一角に動物園と圖書館との御隣に位し候が、乃ち極東美術帝國の其又本家本元たる美術學校に御座候。されど其の建物の頗る古びて其處此處壁の剝げ落ちたるなど、天平時代の壁模様と申さばそれまでなれど、一國美術の兎も角も本家としては少しく如何と存ぜられ候。

○美術學校生徒の旅
美術學校四年級の生徒一同ハ卒業製作の參考として半官費旅行を許され二週間我國美術の淵源たりし京都奈良を巡覽する都合にて教師一名附添ひ去る十五日出發したり、但し學校よりハ一名につき六圓つゝ支給する
とぞ

4 美術學校騒動と生徒

明治三十一年の退学者数は計四十一名で、例年になく多い。退学の中には病氣退学、除名退学も含まれるが、本年の場合、岡倉校長の辞職および教官の連袂辞職と関係のある退学が多かつたようである。特に日本画科(第一年(研究科)では二十五名の多数にのぼっている。

関連事項

① 学校參觀記

此の教室の受持教師は西郷孤月、菱田春草の二氏のよし、小生の参り候時は生憎御出で遊ばされず、生徒の多數も火鉢を圍みて何か雑話に耽り居られ候。夫より二階へ参り候處、此處は繪畫本科三教室のよし、川端玉章氏室の一角に端座して何か揮毫致し居られ、七八名の生徒は或は筆を走らすもあり、或は繪の具を解けるもあり、豫科よりはズット高尚な處をやり居られ候。室は長方形の西洋室へ疊を敷きて半ば日本風に致し、中央に一段低く通路を開き候ものに御座候。小生はじめは畜の廊下にて兩端に列ねられ候畫は單に陳列せられたるまでと存じ候ひしに、其處

に居らるゝが川端先生にて、此處が繪畫の第三教室なりと申され候時は、少々面喰ひ申候。なに様、教室それ自身が既に斯の如くに御座候故、其の中より生まれ出でたる製作の時々奇々怪々満都の耳目を驚かせ候も亦無理ならぬことと存候。

橋本雅邦氏の擔當せらるゝ第二教室は奥の二階に有之候て、豫科繪畫の教室の如く、一面に疊を敷きつめて四面に様々の畫を掛け、生徒はその前に座して一生懸命研究致し居り候、但しその大半は矢張り火鉢を圍んで煙草をふかし居り候ものに御座候。凡て生徒は一年生も二年生も悉く一教室に集まつて隨意に研究致し候ものゝよし、只此の教室のみは三年生、四年生のために別に一教室を設け、四五人の生徒矢張り火鉢にかざりつき居り、兩方の壁には既成品やら未成品やら立てかけられ、去秋共進會にて見かけたる物も大分有之候ひき。

彫刻科も矢張り第一、第二、第三の三教室に分かれ居り、他に豫科生の彫塑教室有之候、生徒の數も繪畫に比して半ばほど無之、亂雜なる度は之にも増して甚しく御座候。石膏像やら木彫像やら、造りかけのものも有之、成るに垂んとしたるものゝ有之候、其の第二教室と覺え候が、恰も芝居にて能く見受け候如く、室内に特別に又日本風の室を設け、段を踏み障子を明けて這入り候處、仲々興味あることに御座候。

圖案科は此處より長き廊下を通りて參り候へば、別棟の建物有之、之ればかりは稍々建物らしき建物に御座候、何とか申され候教師志きりに籠の中の鳩を寫生し居られ、次の室にて生徒諸氏は机に向つて様々なる圖按を或は摸寫し或は研究致し居られ候、此

の教室のみは遊んで居り候もの極めて少數に御座候ひしが、何となく麴町あたりの縫取屋の様の心地致し候、何處か縫取屋か自分にも解り不申れど、小生は不圖かく考へ起し候、それより又廊下を渡りて講堂の傍らバノラマ様の建物の中に參り候、此が前年新設されたる西洋畫の教室に御座候。

最初に二階の教室へ赴き候處、生徒二三名、藤島武二氏教師として十六七の小柄なモデルが一隅に立ち居り候、但し裸体には無之、既に平將に乎、存じ申さぶれど耻しがつて顔を隠し居り候故、小生も早々階下に降り申候、階下には二個の教室有之、小さき方にては彫像やら古畫やらを志きりに摸寫致し居り、大なる方にては十五六人の生徒、筋骨逞しき男のモデルを寫し居り候、勿論眞裸体にて一段高き處に立ち居り候、但し陰部は布にて掩ひ居り候。四邊の壁には様々の裸躰畫隙間もなく掲げられ候、皆生徒の製作のよし、中には是れでも人間かと思はれ候ものも御座候ひき。尚他に彫金科、鍛金科、鑄金科、漆工科等有之候よしなれど、案内致し候人が非常に忙しき様子故、亦後日を期して歸り來り候。

ホんに一寸素通り致し候事故、詳しくは存じ申さぶれど、美術學校生徒全躰一言以て之を申さば、只亂雜の外に出づまじと存候。されど亂雜は乃ち自由の研究を意味するものにて、自由の研究はやがて大なる發達を導き申すべく候。小生は此の考よりして、寧ろ彼等の亂雜なるを悦ぶ者に御座候、早々敬具。

(明治三十一年一月二十一日「國民新聞」)